

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成30年10月5日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、お手元の広報日程に基づいて、私から補足説明をさせていただきます。

まず、1ページ目中段、10月9日火曜日、(2)第636回の審査会合についてでございます。こちらは特定重大事故等対処施設に係る審査のため、非公開にて開催をさせていただきます。審査の対象・議題は、関西電力・高浜発電所3号機、4号機の工事計画認可、特重施設に係る工事計画認可についての審査を予定してございます。

次に、その下、(3)第637回の審査会合についてでございます。こちらは、審査の対象といたしましては、1件、九州電力・川内発電所1号機、2号機の安全保護盤の取り替えに係ります工事計画認可について、概要説明をお聞きするという予定でございます。

次に、2ページ目、10月11日木曜日、(6)クリアランス制度に係る規制基準等の見直しに関する事業者との意見交換、こちらの開催が午前中に予定されております。

こちら、少し補足させていただきますと、先般8月1日の第22回の原子力規制委員会におきまして、こちらは中深度処分の基準の策定について審議を行った、その際の審議の中でございますけれども、クリアランス制度に係る規制基準等の改正について、速やかに検討を行っていくということとなったところでございます。これを受けて、本件について事業者との意見交換を行うというものでございます。

最後に、3ページ目、3.委員の現地視察の予定が1件追加をされております。既にお知らせをさせていただきますが、10月11日、12日の2日間にわたりまして北海道電力・泊発電所の現地調査を行うということで、石渡委員ほかが現地の調査を行います。こちらの調査は、新規制基準適合性審査に関する調査ということでございます。露頭やトレンチの調査、ボーリングコアの観察などを行いまして、発電所敷地の地質・地質構造について、確認を行うということを目的に行うものでございます。

私からの御説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。それでは、どうぞ。

○記者 北海道新聞のクドウと申します。

泊発電所の現地調査の関係で、冒頭少し御紹介ありましたけれども、もう少し、どんなことを調べたいのかというのがありましたら、教えていただけますか。

○大熊総務課長 泊発電所、審査におきまして、現在、敷地の地質・地質構造についての議論・審査が行われているところでございます。

もう少し具体的に申しますと、敷地内の破碎帯などの可能性ということにつきまして、段丘の堆積物の年代から判断するという説明がなされてきているところでございまして、そうした段丘の堆積物の年代に関して、これまでの審査会合での御説明があった内容について、現地で確認を行うということを目的としているものでございます。何ヶ所かトレンチの調査、あるいは露頭の調査、ボーリングコアの調査、済みません、先ほど申し上げたとおりですが、複数の箇所について、2日間にわたって調査を行うということでございます。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—